

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：交通まちづくり	
日付：11月 2日（日）曜日、セッション時間：9：00～10：30	
司会者名（所属）：柿本竜治（熊本大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体：本セッションでは、自転車走行空間整備による自転車利用促進が地球温暖化防止に及ぼす影響評価、交通バリアフリーや景観を如何にして客観的に評価するといった住民主体のまちづくりに欠かせないツールの開発や子供目線からの L R T の評価など、地球規模から子供の評価を如何にまちづくりに取り入れるかまで幅広い話題が提供された。各報告とも研究に取り組み始めたものばかりであり、研究の枠組みや適用の妥当性についての討議が中心となった。発表番号(173)については、意欲的な取り組みであるが、あまりにもモデルを単純化し過ぎているため、適用範囲にかなり限定があることが議論された。発表番号(174)については、「人に優しいまちづくり」を目的としているのであるから、物理的な客観指標だけでなく、人間の主観的な評価を反映させる工夫の必要性等が議論された。また、発表番号(174)については、子供の目線を L R T の評価に取り入れる理由、評価方法の枠組み、評価方法の妥当性について議論された。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(173)・諸田恵士・国土技術政策総合研究所道路研究室 自動車と自転車との間の手段分担モデルについて、推定式の妥当性や適用範囲（距離、地域等）を中心に議論が交わされた。今回の推定式は、速度のみを効用に持つ簡易なものであり、本日の討議内容を考慮し今後改善していくことが回答された。また、距離が長くなると疲労が生じるので、速度が速くなったとしても長距離域での転換や坂道が多い地域での適用可能性については、適用の打ち切り範囲を今後検討するとともに、地域特性を考慮した適用を行っていく等の回答がなされた。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(174)・中野雅弘・大阪産業大学工学部都市創造工学科 交通バリアフリーや景観を評価するための指標の抽出方法やその妥当性を中心に議論が交わされた。他地域でも適用できるように、道路構造令等に基づき物理的指標の設定を行っている。今回の調査は、学生が行っているが、これらの指標には客観性が担保されており、他の者が調査しても同様の結果が得られるとの回答がなされた。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(175)・松岡宏和・波大学大学院システム情報工学研究科 子供の心理分析の枠組みの妥当性を中心に議論が交わされた。L R T と電車に対する子供の印象の捉え方に本質的に差があるのかについては、著者らは差があることを前提としているとの回答がなされた。また、今回提示された共分散構造モデルの中での子供の視点は何処に反映されているのかの問いについては、L R T の色や速度への回答の中に考慮されているとの回答がなされた。</p>